

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年1月26日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670500166
法人名	医療法人 杏林会
事業所名	グループホーム あんずの家
所在地	鹿児島県いちき串木野市桜町39番地1 (電話) 0996-32-8111
自己評価作成日	平成28年12月1日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成29年1月18日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

あんずの家は、いちき串木野市のほぼ中心の住宅地にあり日常のいろいろな音や動きを敏感に感じることができ、入所者も程よい刺激を受けながら生活しておられます。また季節ごとに花を植え替えたり、野菜を育てたりと入所者の皆様と一緒に季節の変わり目を肌で感じられるようにしております。スタッフは30代～60代、入所者も70代～90代までおられ、ひと昔は普通であった多世代家族のような関係を構築しており、懐かしい空気がながれているあんずの家です。今年で13年目を迎えましたが、入所者の方々が何はともあれ、まずあんず・・・と思って頂けるように、安心して暮らせるように、そして理念でもある「あなたがあなたらしく生きていただく為に、今までのあなたを大切に楽しく過ごして頂くことを念頭におき支援しております。

- ・当ホームは、幹線道路に近い住宅街に位置し、公園や飲食店、パン屋、駅があり日常の散歩コースでは、グランドゴルフを楽しむ方々や子ども達と触れ合うことができる環境にある。
- ・開設当初からの理念は、「あなたがあなたらしく生きていただく為に、今までのあなたを大切に楽しく過ごす」といった、一人ひとりの普通の生活をサポートするというケアでありユニット会議や全体会議などで振り返り、職員の意見の統一性を図り、具体的なケアについて話し合っている。
- ・自治会に加入し広報誌や回覧板を通じて地域の行事へ参加するなど相互に協力体制を築いている。地域の方から野菜の差し入れがあったり、幼児の訪問や自治会の体育部長さんが「太鼓」の演奏をボランティアとして披露して下さったりと交流を深めている。
- ・重度化した場合の取り組みについては、「重度化した場合の対応に関わる指針」を掲げ利用者や家族と十分に話し合い、医療機関や施設を紹介するなど理解を求め了承を得ている。ホームは、看取りの体制がなく、ホームででき得る最大のケアを提供している。今後、管理者は、「意思確認書」の作成についても検討したいと考えている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	何はともあれまずあんず、あなたがあなたらしく生きて頂くために、今までのあなたを大切にとの理念に基づき実践している。	ホームの理念は開設当初から変わっておらず、事業所内に掲示されケアを提供する際に必ず振り返り理念に沿ったサービスが提供しているかどうか日々考えながらケアに取り組んでおり職員会議で理念を振り返るようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	いちき串木野市の桜町公民館の自治会に加入し、集落の行事やリサイクル活動にも参加している。	自治会に加入し、ホーム便りを配布したり、回覧板を通じて地域の行事を確認し情報収集してグランドゴルフなどの行事に参加するようにしている。また、地域の方から介護などの相談があったり、野菜などの差し入れも受けている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	いちき串木野市の認知症サポーター養成講座にも参加している。また地域の方々の様々な慰問も受け入れながら交流を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、2か月に1回第2水曜日に運営推進会議を開催し行政・居宅・地域の代表の方々や入所者の家族へサービス内容の報告や意見交換を行いながらサービスの向上に努めている。	会議メンバーによる活発な意見交換があり、実際に家族からの要望がありスタッフボードに職員を写真入りで紹介するよう改善した。現況報告を始めとするホームの取り組みや課題についてアドバイスや助言などを頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて相談や報告を行っており、その都度適切なアドバイス等を頂きながら、協力関係を築いている。	市担当者とは、良好な関係性を築いており電話や面談などで相談したり助言を受けている。認知症サポーター研修や他の研修会への参加の誘いも多く職員が参加しやすいようシフト調整などしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に向けて、毎月会議を開催しており、玄関の施錠も含めて身体拘束や行動制限のないケアに日々取り組んでいます。	スタッフ会議や個別カンファレンスを開催し、マニュアルを踏まえ身体拘束の弊害について理解を図っている。センサーマットの活用必要性についても職員全員で検証している。また、焦燥感が強い方などは自然に寄り添い会話したり、一緒に散歩などして安心してもらっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待は勿論のこと言葉による心理的・精神的虐待も見過ごさないよう職員間でも十分に気をつけており、現在まで虐待は認められない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一年に一回、権利擁護・成年後見制度を学ぶための研修を行っています。本年度は3月に研修会を行う予定である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に、重要事項説明書に沿って読み合わせを行い、時間をかけ説明して了承を得た上で署名・捺印を貰っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>来訪時等に状態報告を行うとともに、ご家族の意見や要望なども伺い、スタッフ会議等で検討している。</p> <p>各ユニットの玄関にご意見箱を設置している。また、本年度より家族会を開催している。</p>	<p>利用者や家族からは日々の暮らしの中で会話して意見、要望を聴取している。年1回家族会を開催しており、重度化した場合の家族の悩みや不安感を聞いたり、また浴室の手すり設置については利用者から要望など具体的な提案があった。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>代表者は、法人行事や当ホームの季節行事に参加し職員と交流する機会を設けている。</p> <p>管理者はスタッフ会議にて意見聴取している。また、管理者用の連絡ノートを用いている。</p>	<p>年1回程度、管理者と職員は面談を実施し直接意見、提案を聞く機会を設けている。また、「申し送りノート」や「気づきノート」を活用したり、職員会議で話し合うなどして出された意見は運営に活かすようにしている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>管理者より法人事務長へ個々の勤務状態等報告している。</p> <p>職場環境の改善や人材育成に力を入れ離職者の減少に努めている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の能力や経験年数に応じてスキルアップできる研修を選択し受講することで新しい能力や技術を身につけてもらう。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に参加し定期的に研修やネットワーク作りを行っている。また、管理者は市の認知症初期集中支援チームにも所属し地域との交流を深めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご本人やご家族と面談を行い、生活歴や要望、それぞれ思いなどを確認し安心した生活が送れるように努めている。しかし、本人と家族の思いに食い違いなどがあり苦慮する場面も多い。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談や契約時に、ご家族の抱える不安にしっかりと耳を傾け、信頼していただけるような関係づくりを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談を通じてご本人、ご家族の思いを確認し、満足していただけるサービスが提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしい暮らしが続けられるように、一人ひとりお互い支えあいながら、信頼関係を築けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>様々な情報を共有して、ご本人にとって大切な存在として、ご協力を頂いている</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご本人へ知人等の面会等が気軽にできるようにしている。また、家族との外出や外泊等の希望に添えるように支援している。</p>	<p>近隣の知人や友人の方の訪問があったり、職員が自宅訪問を支援する方や毎週1回外泊をされる方がおられる。美容師の来訪があり馴染みの関係を継続している。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>一同に会する機会は、食事やお茶の時以外少ないが2～3人の集まりがあり、それぞれに関係を保っている。しかし、認知力に差があり負担になる利用者には職員が対応して関係性が崩れないように努めている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>契約終了後も、相談に応じ可能な限りフォローできる体制を作っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人・ご家族の意向を伺ったうえで、ご本人の日々の生活の中で表情や言動から心身状況を把握するよう努めている。	失語症の方がおられるが、表情やしぐさから思いを汲み取ったり、家族に情報を聞き取るなどして本人の思いを共有している。また、「申し送りノート」「気づきノート」を用いて情報共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の暮らしについては、ご本人からはもちろん、ご家族や居宅担当ケアマネ、身近な介護者から情報をいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で、出来る事と出来ない事を見極めて、その人らしく暮らしていけるよう支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の気付きは、生活記録に記入し、申し送り等で職員間で共有している。その場で解決できない課題については、カンファレンスを行っている。話し合いの結果とご本人やご家族の意向などを反映した介護計画の作成に努めている。	「気づきノート」や生活記録を参考に支援状況を踏まえモニタリングを3ヶ月ごとに実施している。スタッフ会議では、利用者本位の介護計画の立案に向けて話し合いがおこなわれ6ヶ月毎に見直しをしている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に日々の様子を記録し、月に一回ケアカンファレンスを行い3ヶ月毎にモニタリングを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に応じたサービスが提供できるように努めている。両御家族にそれぞれの利用者の状態報告を行い、了承得た上で居室の移動を行い利用者間のトラブルを未然に防ぐようにすることもある。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	豊かな暮らしを楽しむため地域の公園等を利用している。また、季節ごとに開催される地域行事等への参加に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	可能な限り、入居前のかかりつけ医との関係を継続、医師との連携に努めている。しかし、現病・既往歴によっては緊急時の対応等の為、協力医療機関への主治医交代もお願いしている。	訪問診療や外来受診の方がおられ、本人や家族が望む主治医となっている。緊急時や夜間帯は職員が支援し医療機関との協力体制を築いており、家族とも連携を図り適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在はグループホーム内に看護師がいない為、かかりつけ病院の看護師に報告相談し適切な医療が受けられるよう支援しているが、来年度より医療連携体制を整える予定である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院された場合は、管理者は入院医療機関の担当医やMSWとの連携を図り、早期の退院に向け受け入れの態勢を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化に伴う対応について、文書にて説明を行い承諾を得ている。また、入居中の状態報告を行うとともに今後、重度化した場合でも安心して過ごせるように病院や他事業所とも連携を取っている。	「契約時に重度化や終末期に伴う対応の指針」にて説明し同意を頂いている。重度化した場合は、段階に応じて医療機関、施設などの紹介をおこなうなどホームでできる最大のケアの提供に努めている。今後、管理者は指針の内容を精査し見直したいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアル作成し、冷静に対処できるように周知している。また救命講習に参加し心肺蘇生法（AED使用方法）の訓練も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防訓練を定期的に行っている。 また、運営推進会議にて消防訓練の報告を行い、有事の際の協力等をお願いしている。</p>	<p>昼夜想定にて避難訓練や自主訓練を実施し、緊急通報装置が設置され、地域の協力体制もあり、有線放送を通じて近隣地区に連絡がいくようシステム化されている。水、缶詰、カップ麺など備蓄もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや人格を損ねない言葉かけや対応を心掛けているが、方言の使い方については苦慮する事もある。	スタッフ会議では、プライバシーや人権擁護の重要性について話し合ったり、勉強会で知識を研鑽している。職員は、特に言葉の使い方を統一するよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	押し付けや無理強いをせず、ご本人が自己決定できるようなかかわりに心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムに合わせ自己決定できるような雰囲気づくりをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	行きつけの美容室やビューティヘルパーを利用し、好みのヘアスタイルをしてもらっている。服も出来るだけ一緒に選んでもらうように心がけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中はBGMを流し、その時々話題で会話できるように雰囲気を作っている。身体状況に応じて、利用者の方々に食事作りや、盛り付け・後片付けをお願いしている。	献立は、各ユニットの職員が作成し、昼、夕食は利用者のリクエストも聞いている。また、食事量や味付けを工夫するなど健康にも配慮している。包丁を使い下ごしらえを手伝う方がおられたり、能力に応じた手伝いがある。マイ食器やマイ箸などがモットーである。外食や行事食、弁当を楽しんでもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれに合った食事形態で提供し、偏食等にも代替品にて対応している。また、疾患に応じた食事の提供に努めている。水分補給に対しても個々に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、磨き残しや義歯装着の確認を含め口腔内の状態の確認をしている。また、義歯使用者は就寝前には義歯洗浄剤も利用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	状態に合わせた下着やオムツ類を使用し、トイレで排泄ができるように、一人ひとりの排泄パターンに合わせてトイレ誘導を行っている。	布下着にパット、ポータブルトイレを併用される方がおられたり、尿意、便意のない方もおられるが生活日誌に記録し、排泄のリズムを把握してなるべくトイレで排泄ができるよう支援している。排泄時、職員は扉を閉めて外で待つなどプライバシーに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を十分に行い、排泄時等腹部マッサージを行い、散歩や運動等も積極的に行えるように心がけている。また担当医に相談し緩下剤を用いて排便コントロールを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	利用者全員、週3回で午後から入浴時間を設け、ゆっくりと入浴して頂いている。その他、身体の汚染時等は状況に応じてシャワー浴を行い清潔が保てるように支援している。	その方のタイミングで入浴をしていただくなど、希望や体調などに配慮しながら入浴支援を実施している。また、異性介助にも配慮し気持ちよく過ごしてもらっている。家族と一緒に温泉に行かれる方もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活習慣や体調に合わせて、安心して休息できる場所（長いすやソファ）を提供し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬剤の説明書を個々にファイルし内容把握に努めている。また、処方変更等についてはその都度、申し送りにて周知し状態の観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しや皿拭き、調理の手伝い等して下さっている。天気の良い日は、ドライブや買い物、外食等行い気分転換を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全ての希望には対応できないが、出来る限りは、散歩、ドライブ、外食等を行っている。その他季節の行事等、ご家族の協力も貰いながら参加できるように支援している。しかし、職員の人員により困難になる事も多い。	近隣に散歩や買い物に出かけることもあれば少人数でドライブを楽しんでいる。なるべく外出の支援を検討し可能な限り実施している。また、遠出の時は家族にも協力を頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者の能力に応じて、財布を所持し買い物の際は自分で支払う機会を設けているが、認知機能の低下により金銭管理が出来ない方が増えている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者の能力におうじて手紙を書くお手伝いや、電話でいつでも御家族と会話ができるようにしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングは、天井も高く明るく壁には、季節に合った装飾品を飾り季節感を出している。夏場は、西日が当たるためすだれ等で工夫している。</p>	<p>リビングには、ゆったりとくつろげるソファがあり天井も高く広々とした開放感のある共有スペースである。また、ウッドデッキにて外気浴をしたり景色を眺めることができる。日常は、ユニット間の交流が活発におこなわれ家庭的な雰囲気ホームである。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>日中は、リビングで過ごされる方が多く利用者間で楽しく会話されている。また、その時々で部屋で過ごしたり一人の時間も楽しんでおられる。また、ユニット間の行き来もあり利用者それぞれ自由に過ごされている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス、家族写真、テレビ等ご自宅でも使われていたものや馴染みのものを持ち込んでおられ、個性的な部屋になっている。	居室でテレビ鑑賞をしながらくつろぐ方がおられたり、仏壇や位牌、家族写真など馴染みの物を持ち込み個性的な落ち着いた空間になっている。畳部屋もあり、その人らしい生活空間を大切にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見渡しがよく広い造りになっており、床や居室の出入り口は段差のないバリアフリーである。また、個々の動線を把握し利用者が移動の際、解りやすい環境に努めている。		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない